

景況調査

報告書 NO. 49

平成22年 10月～12月 実績
平成23年 1月～3月 見通し



蒲郡商工会議所
中小企業相談所

平成22年度第3四半期(H22. 10~12月)景況調査

1. 調査時点 平成22年12月

2. 調査対象 (1)対象地区 蒲郡市内

(2)対象(回答)企業 135[128企業、7団体＝三河織物工業(協)、中部繊維ロープ工業(協)、蒲郡市上下水道工事(協)、蒲郡建設業(協)、三河繊維産元(協)、蒲郡地区旅館組合、蒲郡鉄工会]

3. 調査方法 聞き取り調査によるアンケート調査

業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業	全業種
合計	52 (3)	13 (2)	17 (1)	30	15 (1)	8	135 (7)

※ ()は団体

5. 概況

全業種総合判断DI値(当期実績)は、前年同期比で△24.4、前期実績(7~9月・△19.2)と比較すると5.2ポイントの下降、悪化の傾向が見られ、前期比については△25.2、前期実績(7~9月・△23.5)に比較すると1.7ポイントの下降、悪化の傾向が見られた。**売上DI値**については、前期比で△16.3、前期実績(7~9月・△14.0)と比較すると2.3ポイントの下降、悪化の傾向が見られた。また、**収益DI値**については前期比で△31.1、前期実績(7~9月・△23.9)と比較すると7.2ポイントの下降、悪化の傾向が見られた。**総合判断来期(H23.1~3月)見通し**については、△40.0、前期実績(7~9月・△28.4)と比較すると11.6ポイントの下降、悪化の見通し。

「**製造業**」のうち**食料品**は、水産加工は年末の需要期で前期比では改善も前年比では悪化、売り上げ不振に苦しむ声が多い。**繊維**は、主力商品であるジャケット・カーテンについては、稼働率は40~50%前後で推移。一方、日中関係の動向や中国の賃金高騰の影響等により、国内回帰が進むトピー織は受注好調。**漁網・ロープ**のうち、漁網関係は季節要因もあり忙しい時期。スポーツ、建築、土木等のネットは例年並。繊維ロープは前年並みは維持するも、低水準で推移し苦しい状況。**鉄工**のうち、工作機械関係は円高の影響はあるが新興国・先進国の需要拡大で回復基調にて推移。自動車部品関連は稼働率80%前後で推移するも、エコカー補助金終了で国内は減少。国内需要の回復は不透明。海外向け好調など車種間のバラつきが大きい。**化学・プラスチック**のうち、化学工業は、中国向け輸出が好調も円高で採算大幅悪化。原油・天然油脂高騰で更なる採算悪化に不安。プラスチックは、出荷量はリマンショック前の8割程度で安定も、原材料価格の高騰を懸念。

「**建設業**」は、業界を取り巻く環境は、公共工事・民間工事ともに厳しい状況が続く。

「**卸売業**」のうち、繊維卸は産業資材関連：自動車関連に大きな変動は無し。受注の小ロット化で対応に苦戦。寝装関連：秋冬商品は暖冬で10月鈍く、11月から持ち直し。インテリア関連：秋冬のトップシーズンだが出荷量・発注量とも期待には届かず。新柄の実需要に期待。アパレル関連：10~11月は堅調。暖冬で生産調整した防寒物が品薄。繊維卸・寝装・インテリア・アパレルいずれの業界においても原材料(綿)の高騰と安定確保が課題。

「**小売業**」は、年末で若干改善傾向。家電エコポイントの駆け込み需要が大きく、関連商品が好調。今後、景気回復に伴う消費の伸びに期待。飲食は、忘年会は低迷した昨年より微増傾向。イルミネーション、プレミアム付き商品券等を消費に結びつける工夫が課題。石油は、米・中の需要拡大をにらみWTI先物原油価格が緩やかに上昇。陸上スポット市場でも価格は上昇基調。夏場のエアコン販売好調で元売が減産を進めた灯油が品薄傾向。今後の景気動向・気候に注目。

「**サービス業**」のうち**旅館関係**は、忘年会・新年会は減少傾向。また、宴席での消費単価も低下。アカザエビ・グラウンドゴルフ等は継続的なブランディングが必要。新たな源泉(天然ラドン)による宣伝効果に期待。外国人旅行客は、尖閣問題等に起因する減少も底を打ち、宿泊獲得に取組みたい。

「**運輸通信業**」のうち、**旅客・水運**は、円高による輸出伸び悩み、エコカー・家電エコポイント後に国内メーカーが減産を進めた影響で動きが鈍い。また、輸入は円高でも微増に留まる。三菱の完成車輸出台数は前年同期比で4割増も、一部車種の製造移転で今後鈍化の見込み。バス業界関係：秋の行楽シーズンで貸切団体・募集ツアーも前年並みを維持。一方で忘年会は前年割れ。

設備投資状況は、31事業所(48件)で設備投資が実施され、生産設備・他に投資された。来期は20事業所(28件)が設備投資を計画している。

経営上の問題点では、売上の停滞・減少、利幅の縮小、競争激化、原材料(燃料)高、工場機械店舗の狭小・老朽化が項目別・業種別で上位を占めていた。

当地区において 今期当初は暖冬で関連消費の動きが鈍かった。また、エコカー補助金、家電エコポイント等の景気刺激策が一段落し、国内消費が低迷するなか輸出関連産業の動きが目立った。一方で、円高、原油・綿等の原材料価格高騰が共通の懸念材料である。新年を迎え、景気全体の着実な回復に期待をしたい。当所としては、昨年11月より新役員体制に入り、部会・委員会等の組織活性化を進めている。蒲郡商工会議所アクションプランの推進、または中小企業の人材育成強化等を通じて、地域経済の振興・活性化を図っていく所存である。

全業種(当期実績)

(DI 単位:%)

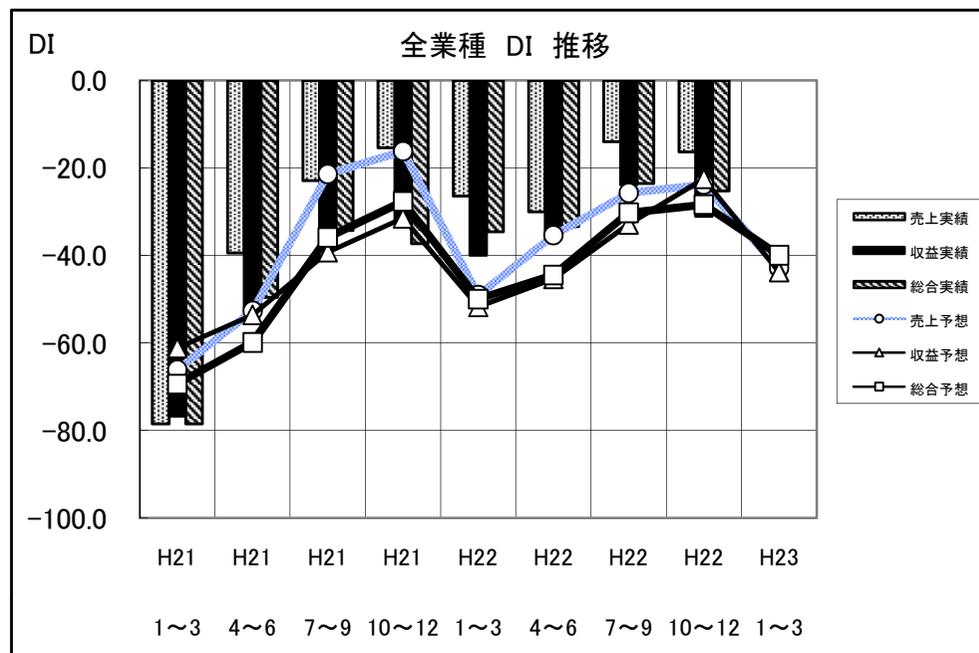
<全業種 各項目別推移>

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成21年10月~12月 に比べて	前期比 平成22年7月~9月 に比べて	来期見通し 平成23年1月~3月 の見通し	売上		収益		総合判断			
				前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	来期見通し	
①生産額・売上額	-28.9	-16.3	-42.9	H21. 10~12月実績	-51.9	-15.4	-42.8	-31.8	-49.1	-37.3	-50.0
②製品・商品在庫	-3.0	-5.2	-7.4	H22. 1~3月実績	-33.6	-26.4	-38.2	-40.0	-31.8	-34.6	-44.5
③資金繰り	-12.6	-16.3	-17.0	H22. 4~6月実績	-20.0	-30.0	-26.4	-35.7	-26.2	-33.4	-30.3
④採算(収益)	-39.2	-31.1	-43.8	H22. 7~9月実績	-19.6	-14.0	-22.4	-23.9	-19.2	-23.5	-28.4
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-7.4	-2.9	-10.4	H22. 10~12月実績	-28.9	-16.3	-39.2	-31.1	-24.4	-25.2	-40.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-24.4	-25.2	-40.0								

[総合判断]

業種	前年同期比	前期比	見通し	業種	前年同期比	前期比	見通し
全業種				卸売業			
				(繊維卸)			
製造業				小売業			
(食料品)				(飲食)			
(織物)				(石油等その他小売)			
(漁網・ロープ)				サービス業			
(鉄工)				(旅館)			
(化学・プラスチック)				運輸通信業			
建設業				(旅客・貨物輸送・水運)			



<業況判断DIの推移>

	H21.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	H22.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	H23.1~3月見通し
売上	-78.5	-39.4	-22.9	-15.4	-26.4	-30.0	-14.0	-16.3	-42.9
収益	-76.8	-52.1	-38.1	-31.8	-40.0	-35.7	-23.9	-31.1	-43.8
総合	-78.5	-49.6	-34.3	-37.3	-34.6	-33.4	-23.5	-25.2	-40.0

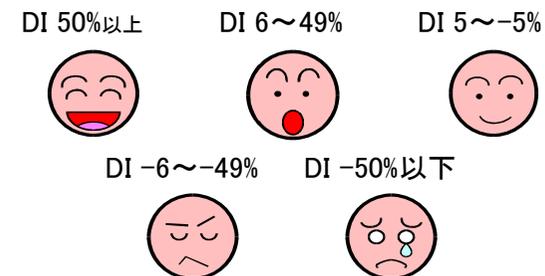
◎DI (デフュージョン・インデックス 業況判断指数)について
DIは景気が上向きか、下向きかを表す指数である。

DI(%)=増加・良好などの割合ー減少・悪化などの割合

(注)生産額・売上額 :DI=(増加)ー(減少) 採算(収益) :DI=(上昇)ー(下降)
製品・商品在庫 :DI=(減少)ー(増加) 従業員数 :DI=(増加)ー(減少)
資金繰り :DI=(好転)ー(悪化) 業況(総合判断) :DI=(好転)ー(悪化)

DIが0より大 ⇒ 景気上向き
DIが0 ⇒ 景気横ばい
DIが0より小 ⇒ 景気下向き

(総合判断のDIの目安)



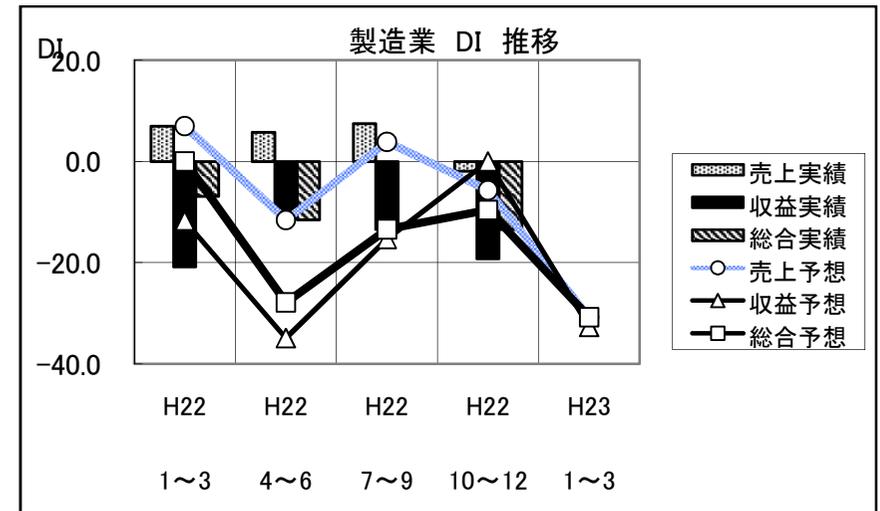
製造業

売上DI値は△1.9、前期実績7～9月期(7.5)に比して9.4ポイントの下降、収益DI値は△19.3、前期実績7～9月期(△13.5)に比して5.8ポイントの下降、総合判断DI値は△13.4、前期実績7～9月期(0.0)に比して13.4ポイントの下降と、売上・収益・総合ともに悪化傾向である。向こう3カ月の見通し 売上・収益・総合ともに悪化傾向が出ている。

製造業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成21年10月～12月 に比べて	前期比 平成22年7月～9月 に比べて	来期見通し 平成23年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	5.8	-1.9	-30.8
②製品・商品在庫	0.0	-3.9	-5.8
③資金繰り	3.8	-7.7	-11.6
④採算(収益)	-21.2	-19.3	-32.7
⑤従業員数(含む臨時・パート)	3.9	9.6	-5.8
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	-13.4	-30.8



<業況判断DIの推移>

	H22.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	H23.1～3月見通し
売上	7.0	5.8	7.5	-1.9	-30.8
収益	-20.9	-9.6	-13.5	-19.3	-32.7
総合	-6.9	-11.5	0.0	-13.4	-30.8

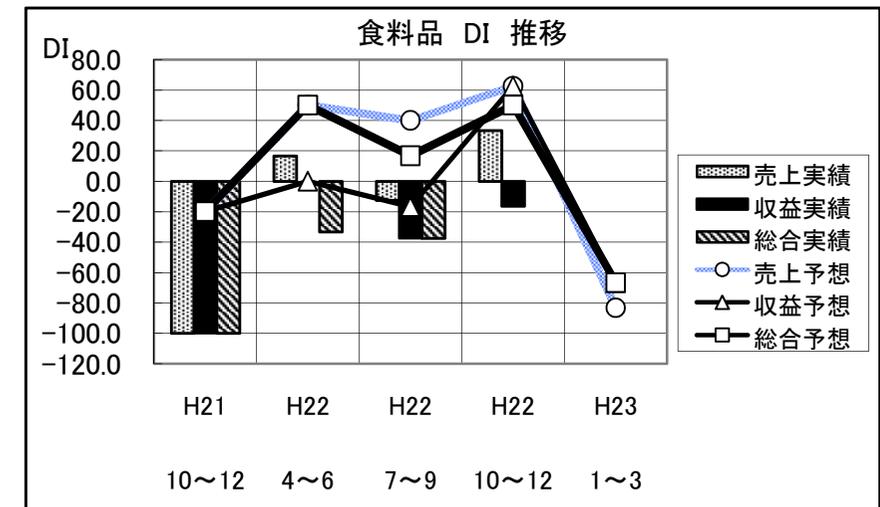
[食料品]

売上は、前年同期比ではDI値△66.7%と悪化。水産加工業では年末の需要期であり、前期比DI値は33.3%と好転したが、多くの企業が売上不振を一番の課題に挙げており、需要の停滞は深刻。収益は前年同期比DI値△100.0%、前期比DI値△16.6%と採算性は特に深刻さが増している。販売先からの値下げ要請や、原材料・包装資材コストの負担感を訴える声がある。総合判断は前期比DI値は0.0%と横バイであるが、前年同期比ではDI値△66.7%と業況は悪化。向こう3カ月の見通し: 年末の需要期も過ぎ、売上DI値△83.3%、収益DI値△66.7%、総合判断DI値いずれも△66.7%とさらに業況は厳しくなることが予想される。国内の食品業界は、海外製品との価格競争や販売先からの値下げ要請など、厳しい経営環境下にあり、いかに消費者ニーズを捉えた商品を提供できるかが課題。国産小麦を使った商品開発や蒲郡メヒカリやアカザエビなどの地産食材を活用していく動きがみられる。(食品部会)

(食料品)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成21年10月～12月 に比べて	前期比 平成22年7月～9月 に比べて	来期見通し 平成23年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	-66.7	33.3	-83.3
②製品・商品在庫	-16.7	-16.7	-16.7
③資金繰り	-16.6	-16.7	-33.3
④採算(収益)	-100.0	-16.6	-66.7
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	-16.6
⑥貴社の業況(総合判断)	-66.7	0.0	-66.7



<業況判断DIの推移>

	H22.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	H23.1～3月見通し
売上	-100.0	16.7	-12.5	33.3	-83.3
収益	-100.0	0.0	-37.5	-16.6	-66.7
総合	-100.0	-33.3	-37.5	0.0	-66.7

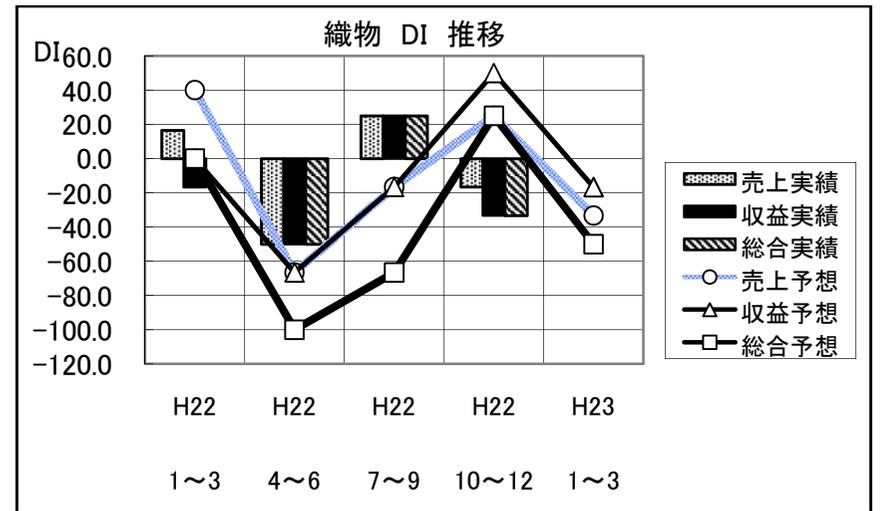
【織物】

主力商品のジャカードカーテンは、企業間格差はあるが、深刻な状況が続いており、稼働率は40～50%で推移。一方ドビー織では、日中関係の動向や中国の賃金高騰の影響などによる国内生産への回帰傾向が続いており好調を維持。しかしながら、織工賃の低迷により、総じて採算面は非常に厳しい状況が続いている。向こう3カ月見通し ジャカードカーテンは、現状維持ができれば良い方で、さらに深刻な状況も考えられる。ドビー織は、2月から3月まで受注しているといった声も聞かれるなど、堅調な受注見通し。不安材料として、原材料費(特に綿糸)上昇の影響による需要減衰が懸念される。(繊維部会)

(織物)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成21年10月～12月 に比べて	前期比 平成22年7月～9月 に比べて	来期見通し 平成23年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	-50.0	-16.6	-33.3
②製品・商品在庫	-16.6	-16.6	0.0
③資金繰り	-33.3	-16.7	-16.7
④採算(収益)	-66.7	-33.3	-16.7
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-16.7	0.0	-16.7
⑥貴社の業況(総合判断)	-50.0	-33.3	-50.0



<業況判断DIの推移>

	H22.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	H23.1～3月見通し
売上	16.6	-50.0	25.0	-16.6	-33.3
収益	-16.7	-50.0	25.0	-33.3	-16.7
総合	0.0	-50.0	25.0	-33.3	-50.0

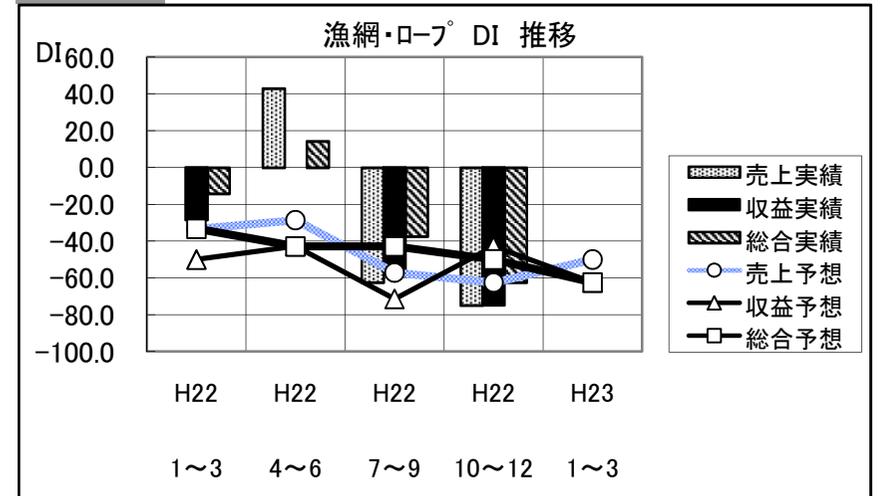
【漁網・ロープ】

漁網: スポーツネット、建設用ネット、土木用ネットは例年通りの動きであった。受注の面からみれば前期比で微減だが、季節的にこの時期は受注が一段落する時期なので、特に変化は無し。漁網に関しては受注が増え忙しい時期。ロープ関係は動きが悪い時期であった。向こう3カ月の見通し 漁網に関しては引き続き受注が見込まれ、多忙になる見通し。ネット関係は受注予測が難しく不透明な状況であるが、年間変動が少ないスポーツネットは例年通りの見込み。繊維ロープ: 前年並みに回復しつつあるものの、前年が落ち込んだ為変わらず厳しい状況である。向こう3カ月の見通し 大幅な変化は無い見込みである。(繊維ロープ部会)

(漁網・ロープ)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成21年10月～12月 に比べて	前期比 平成22年7月～9月 に比べて	来期見通し 平成23年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	0.0	-75.0	-50.0
②製品・商品在庫	-37.5	-50.0	-37.5
③資金繰り	12.5	-25.0	-12.5
④採算(収益)	-25.0	-75.0	-62.5
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-12.5	-12.5	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-25.0	-62.5	-62.5



<業況判断DIの推移>

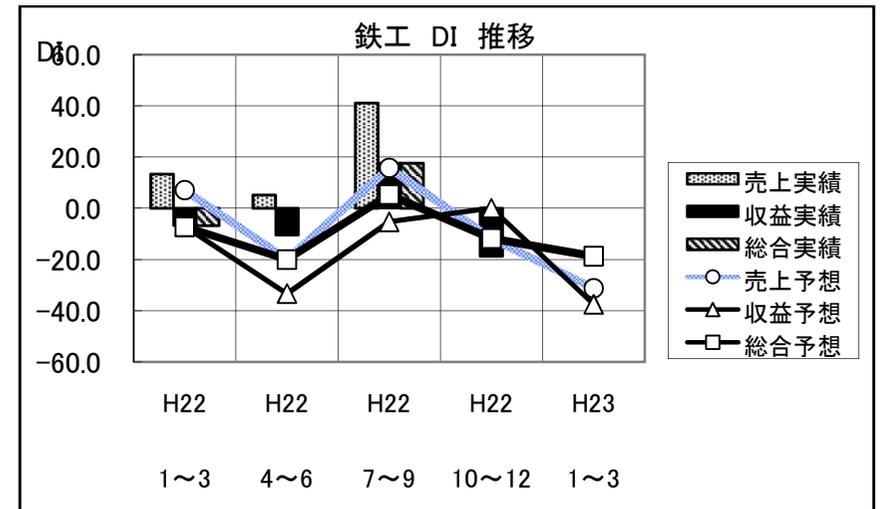
	H22.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	H23.1～3月見通し
売上	0.0	42.9	-62.5	-75.0	-50.0
収益	-28.6	0.0	-57.1	-75.0	-62.5
総合	-14.3	14.3	-37.5	-62.5	-62.5

[鉄工]

工作機械関係：中国をはじめ新興国需要増、先進国市場での需要拡大で回復基調で推移。特に中国・アメリカ(北米)の需要が拡大。各社100%まで操業が回復し外注製作も増加。向こう3カ月の見通し くすぶる欧州の金融不安、不安定な為替情勢、中国の金融政策などを懸念。円高による影響は現在のところ、目立った減少となっていないが依然外需頼みである。国内受注は非常に厳しく、回復のメドがない。来年は更に受注減の心配。自動車部品関係：エコカー補助金終了の影響が大。生産稼働状況は80%程度だが、国内販売は更に減少している。海外向けのウェイトの大きい車種は100%以上の稼働状況。車種によるバラツキが大きく、各社の稼働状況はバラバラである。向こう3カ月の見通し エコカー補助金の影響で、需要の先食いによる、反動がいつまで続くのか不安である。海外向けは、円高の影響が注目される。また、電気自動車(シェア)の推移から目が放せない。(金属鉄工部会)

(鉄工) (一般機械器具・輸送用機械・精密機械) (DI 単位:%)

	前年同期比 平成21年10月～12月 に比べて	前期比 平成22年7月～9月 に比べて	来期見通し 平成23年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	25.0	0.0	-31.2
②製品・商品在庫	12.5	12.5	0.0
③資金繰り	6.3	0.0	-12.5
④採算(収益)	6.3	-18.8	-37.5
⑤従業員数(含む臨時・パート)	12.5	25.0	-12.5
⑥貴社の業況(総合判断)	31.3	0.0	-18.7



<業況判断DIの推移>

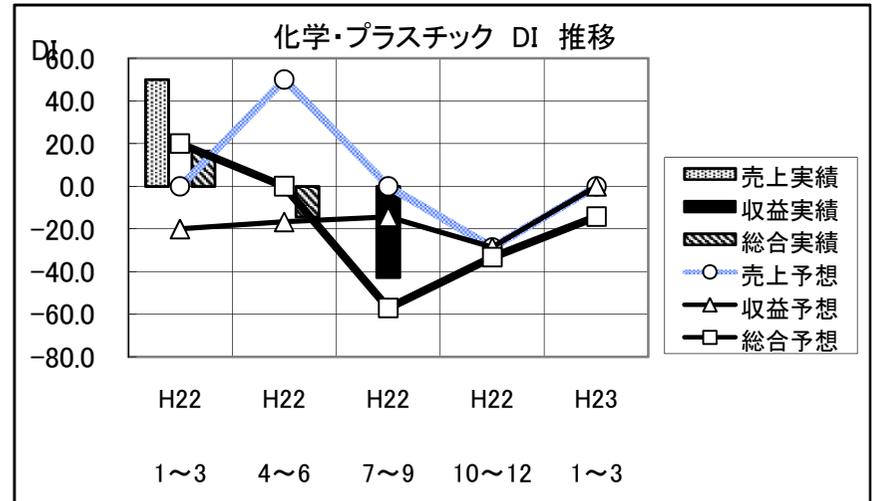
	H22.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	H23.1～3月見通し
売上	13.4	5.2	41.1	0.0	-31.2
収益	-6.7	-10.5	17.7	-18.8	-37.5
総合	-6.7	0.0	17.6	0.0	-18.7

[化学・プラスチック]

化学工業：中国向け輸出が好調であるが、円高により採算が悪化している。向こう3カ月の見通し 原材料である原油・天然油脂等の高騰により、更なる採算の悪化が予想されている。
プラスチック：7月～9月期と同じく安定した時期。原料価格についても安定しており、リーマンショックの影響が少しずつ緩和されてきている。向こう3カ月の見通し ナフサ原料価格が上がっていく見込み。価格転嫁は難しく、収益が圧迫されると考えられ、10～12月期よりも状況は厳しくなっていくと考えられるが、大幅な減益は無いとみている。(化学部会)

(化学・プラスチック) (DI 単位:%)

	前年同期比 平成21年10月～12月 に比べて	前期比 平成22年7月～9月 に比べて	来期見通し 平成23年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	42.8	0.0	0.0
②製品・商品在庫	14.3	-14.3	0.0
③資金繰り	14.3	0.0	0.0
④採算(収益)	0.0	0.0	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	28.6	14.3	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	14.3	0.0	-14.3



<業況判断DIの推移>

	H22.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	H23.1～3月見通し
売上	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
収益	0.0	0.0	-42.9	0.0	0.0
総合	16.6	-14.3	0.0	0.0	-14.3

建設業

売上DI値は△30.7、前期実績7～9月期(△28.6)に比して2.1ポイントの下降、収益DI値は△61.5、前期実績7～9月期(△57.1)に比して4.4ポイントの下降、総合判断DI値は△46.2、前期実績7～9月期(△50.0)に比して3.8ポイント上昇と、売上・臭気は僅かに悪化傾向、総合は僅かながら改善傾向である。向こう3カ月の見通し 売上・収益・総合ともに、悪化傾向にある。

建設業界を取り巻く環境は、公共工事・民間工事ともに厳しい状況が続いており、依然として低迷が長引いている。公共工事全体が縮小するなか、競争も激しく受注金額も低下しており、企業収益に大きな影響を与えている。そのような中、10月より受付開始で予算上限に達した「蒲郡市住宅リフォーム促進事業助成金」が、補正予算が組まれ2月から受付再開。制度活用による受注増に努め、落ち込みを最小限に留めたい。(建設部会)

建設業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成21年10月～12月 に比べて	前期比 平成22年7月～9月 に比べて	来期見通し 平成23年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	-76.9	-30.7	-46.1
②製品・商品在庫	-15.4	-7.7	-15.4
③資金繰り	-46.2	-46.2	-38.5
④採算(収益)	-84.6	-61.5	-69.2
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-15.4	-7.7	-23.1
⑥貴社の業況(総合判断)	-76.9	-46.2	-69.2

卸売業

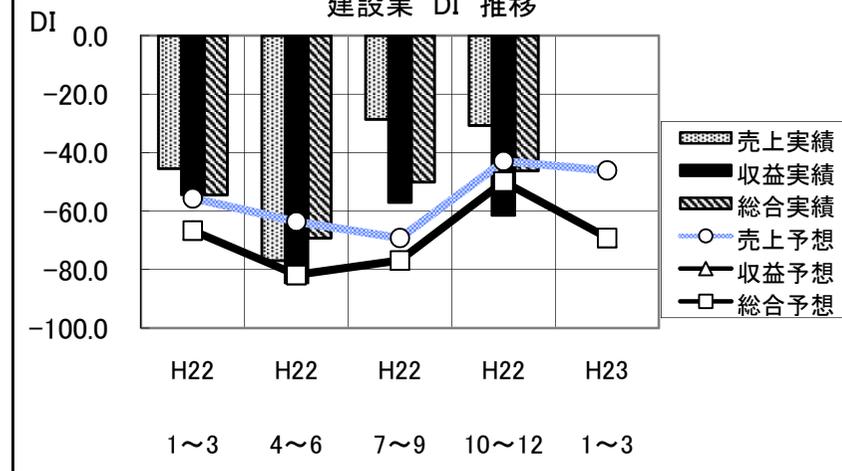
売上DI値は0.0、前期実績7～9月期(△10.0)に比して10.0ポイントの上昇、収益DI値は△17.7、前期実績7～9月期(△30.0)に比して12.3ポイントの上昇、総合判断DI値は△29.4、前期実績7～9月期(△45.0)に比して15.6ポイントの上昇と、売上・収益・総合ともに改善傾向であった。向こう3カ月の見通し 売上・収益・総合とも悪化傾向にある。

卸売業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成21年10月～12月 に比べて	前期比 平成22年7月～9月 に比べて	来期見通し 平成23年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	-35.3	0.0	-47.0
②製品・商品在庫	-5.9	-23.5	-11.8
③資金繰り	-11.8	-5.9	-17.6
④採算(収益)	-41.1	-17.7	-58.8
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-17.6	-29.4	-5.9
⑥貴社の業況(総合判断)	-29.4	-29.4	-47.0

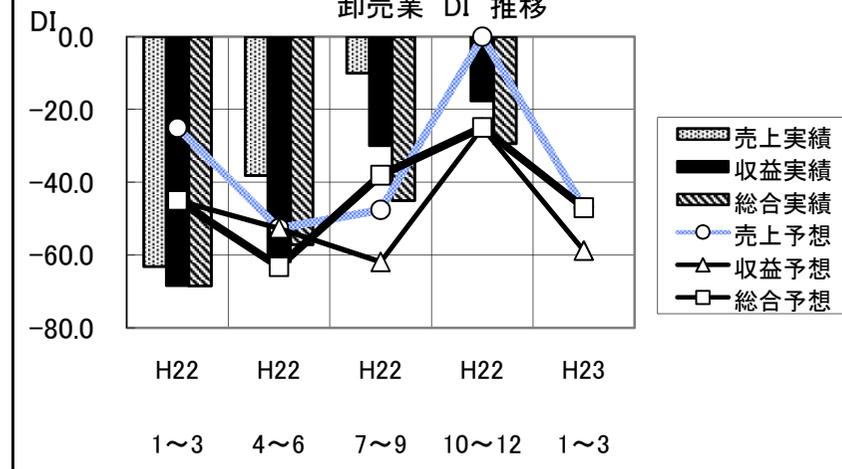
建設業 DI 推移



<業況判断DIの推移>

	H22.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	H23.1～3月見通し
売上	-45.4	-76.9	-28.6	-30.7	-46.1
収益	-54.5	-84.6	-57.1	-61.5	-69.2
総合	-54.5	-69.2	-50.0	-46.2	-69.2

卸売業 DI 推移



<業況判断DIの推移>

	H22.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	H23.1～3月見通し
売上	-63.1	-38.1	-10.0	0.0	-47.0
収益	-68.4	-61.9	-30.0	-17.7	-58.8
総合	-68.4	-57.1	-45.0	-29.4	-47.0

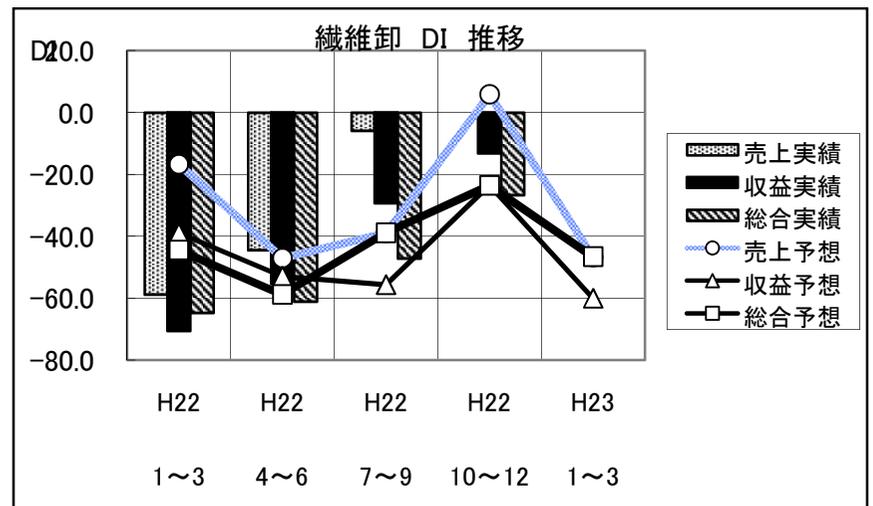
[繊維卸]

産業資材関連:自動車関連はスポット受注があるが大きな変動は無し。一般資材も小口注文が多く、対応に苦戦。向こう3カ月の見通し 原材料(綿花・綿糸等)高騰、製造コストのアップ等を価格転嫁できるか不安。自動車関連資材の国内回帰に期待。寝装関連:暖冬の影響で10月の小売は大苦戦。11月は持ち直すも、12月に入り再度低迷。冷え込みによる需要増を期待。向こう3カ月の見通し 原材料(綿花・綿糸等)、中国製品の高騰のなかで、販売先への価格転嫁が課題。粗利ダウンは免れない。また、4月以降の原材料価格も不透明。インテリア関連:秋冬のトップシーズンに入ったが、出荷量・発注量とも期待には届かず。原材料価格の高騰が懸念材料である。向こう3カ月の見通し 本年度更新された見本帳・新柄の実需要に期待。また、就進学等の移動マーケットによる売上増に期待。原料の値上がり・手配に注意が必要。アパレル関連:10~11月は昨年対比を超える時期もあった。生産調整した防寒物は品薄傾向。向こう3カ月の見通し 原材料(綿花・綿糸等)高騰が課題。特に中国綿布は暴騰。海外製品も高騰しているが、販売先への価格転嫁は厳しい。取扱商品による企業間の売上格差が拡大。(繊維部会)

(繊維卸)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成21年10月~12月 に比べて	前期比 平成22年7月~9月 に比べて	来期見通し 平成23年1月~3月 の見通し
①生産額・売上額	-26.7	0.0	-46.7
②製品・商品在庫	-6.7	-26.7	-13.3
③資金繰り	-13.3	-6.6	-20.0
④採算(収益)	-33.4	-13.3	-60.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-13.3	-26.7	-6.7
⑥貴社の業況(総合判断)	-26.7	-26.7	-46.6



<業況判断DIの推移>

	H22.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	H23.1~3月見通し
売上	-58.8	-44.4	-5.9	0.0	-46.7
収益	-70.6	-55.5	-29.4	-13.3	-60.0
総合	-64.7	-61.1	-47.1	-26.7	-46.6

小売業

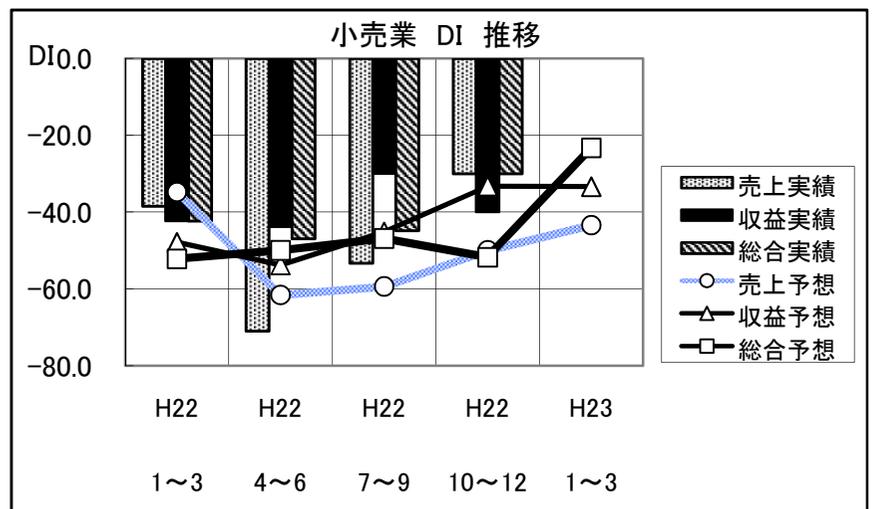
売上DI値は△30.0、前期実績7~9月期(△53.3)に比して23.3ポイントの上昇。収益DI値は△40.0、前期実績7~9月期(△30.0)に比して10.0ポイントの下降、総合判断DI値は△30.0、前期実績7~9月期(△44.8)に比して14.8ポイントの上昇と、売上・総合は改善傾向、収益は悪化傾向。向こう3カ月の見通し 売上は悪化傾向、収益・総合は改善傾向である。

エコカー補助金の終了で乗用車販売は落ち込んだ。12月の家電エコポイント半減に伴う駆け込み需要で、対象製品を扱う店舗の多くは売上が増加傾向。一方で、エコポイントと関連の無い商品を扱う店舗では、消費が縮小し、売上は低調に推移。今後の見通しでは、1月のエコポイント対象商品の絞り込みによる売上の減少が予想されるが、3月のエコポイント終了に伴う関連商品の駆け込み需要も予想される。新年を迎えるにあたり、消費の伸びと売上の増加を期待したい。

小売業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成21年10月~12月 に比べて	前期比 平成22年7月~9月 に比べて	来期見通し 平成23年1月~3月 の見通し
①生産額・売上額	-60.0	-30.0	-43.4
②製品・商品在庫	-6.7	-6.7	-10.0
③資金繰り	-23.3	-23.3	-13.4
④採算(収益)	-50.0	-40.0	-33.4
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-20.0	-6.6	-10.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-33.3	-30.0	-23.3



<業況判断DIの推移>

	H22.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	H23.1~3月見通し
売上	-38.5	-71.0	-53.3	-30.0	-43.4
収益	-42.3	-43.8	-30.0	-40.0	-33.4
総合	-42.3	-46.9	-44.8	-30.0	-23.3

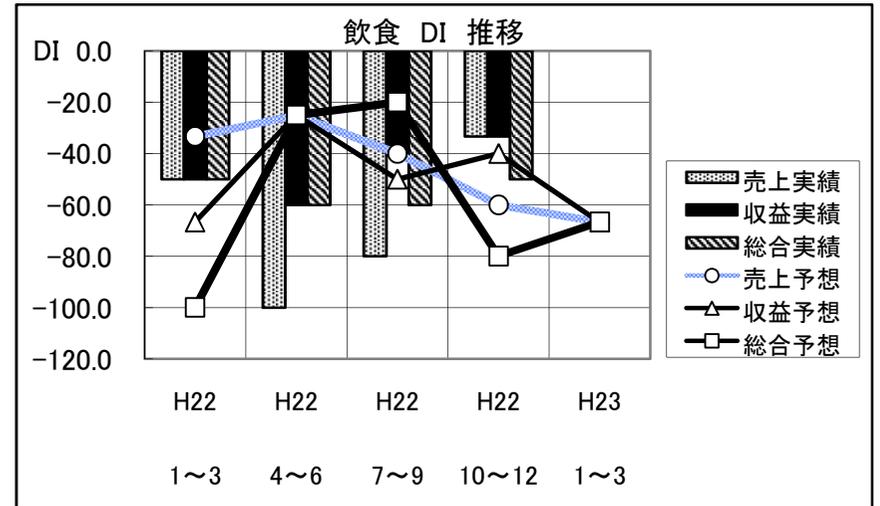
【飲食】

忘年会の予約状況等は、前年に比べ若干ではあるが上向き傾向である。
 駅周辺等で実施されているイルミネーションは、雰囲気を高める効果があるが、観光客等の誘致、飲食店への波及効果にまでは繋がっていないように感じる。向こう3ヶ月の見通し 新年会の予約状況も、忘年会同様若干の上向き傾向にある。歓送迎会等の法人利用の回復に期待をしたい。こんきち金券(蒲郡商店街振興組合発行のプレミアム付き商品券)は小売店に比べ、飲食店への波及効果は高くないとみている。(蒲郡市飲食業環境衛生組合連合会)

(飲食)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成21年10月~12月 に比べて	前期比 平成22年7月~9月 に比べて	来期見通し 平成23年1月~3月 の見通し
①生産額・売上額	-66.7	-33.3	-66.7
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	-33.3	-50.0	-50.0
④採算(収益)	-50.0	-33.3	-66.7
⑤従業員数(含む臨時・パート)	16.7	16.7	-16.7
⑥貴社の業況(総合判断)	-50.0	-50.0	-66.7



<業況判断DIの推移>

	H22.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	H23.1~3月見通し
売上	-50.0	-100.0	-80.0	-33.3	-66.7
収益	-50.0	-60.0	-40.0	-33.3	-66.7
総合	-50.0	-60.0	-60.0	-50.0	-66.7

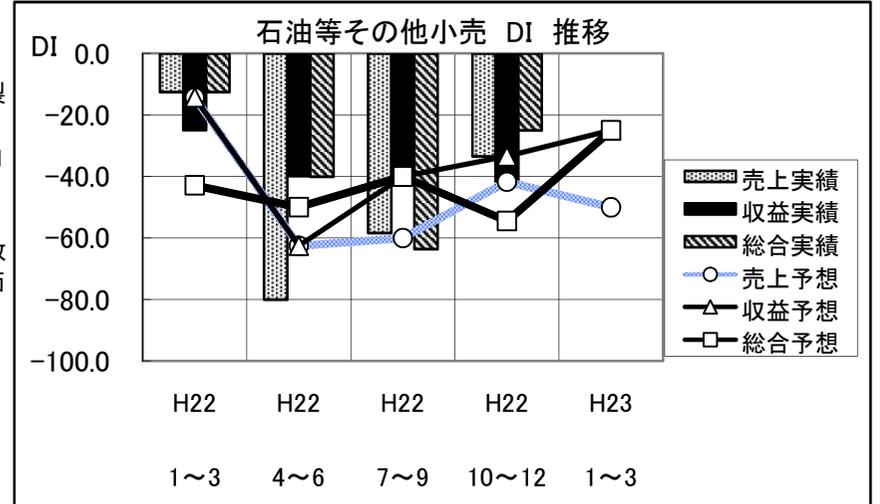
【石油等その他小売】

9月に70ドル台で推移したWTI先物原油価格は、10月に80ドルを超えた。これは、米国の景気回復による石油需給の期待、中国需要拡大の見通し等に起因する。需要期に向け、不安定な状況が続く展望。国内では、12月に入り製油所の装置トラブルが多発、灯油は、夏場のエアコン販売好調で元売が減産を進め、在庫は大幅減少の様相。最新の情勢では、12月11日~17日適用の製品卸売価格は、ガソリン0.5~0.7円、灯軽油1.0円~1.6円の値上げ。原油価格が上昇傾向に転じ、先物価格が堅調に推移するなか、陸上スポット市場でも上昇基調が続く。エコカー減税やエコポイント制度等に支えられた消費動向が、今後の景気を左右すると思われる。向こう3カ月の見通し 直近の原油価格は、WTI先物原油価格で80~90ドルの間で推移する見込みだが、アイルランドに代表される欧州圏内の財政不安や、冬季需要による米国原油製品在庫の大幅減少が進むと、更に上昇する懸念もある。各元売の市場連動価格を考えると、冬季の気候変動による『需要増、在庫減=製品出荷価格上昇』。市場価格も同様に上昇し易い状況。(エネルギー部会)

(石油等その他小売)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成21年10月~12月 に比べて	前期比 平成22年7月~9月 に比べて	来期見通し 平成23年1月~3月 の見通し
①生産額・売上額	-66.7	-33.4	-50.0
②製品・商品在庫	-16.7	-16.7	-16.7
③資金繰り	-25.0	-16.7	-8.3
④採算(収益)	-66.7	-41.6	-25.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-33.4	-8.4	-8.3
⑥貴社の業況(総合判断)	-33.4	-25.0	-25.0



<業況判断DIの推移>

	H22.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	H23.1~3月見通し
売上	-12.5	-80.0	-58.4	-33.4	-50.0
収益	-25.0	-40.0	-41.7	-41.6	-25.0
総合	-12.5	-40.0	-63.6	-25.0	-25.0

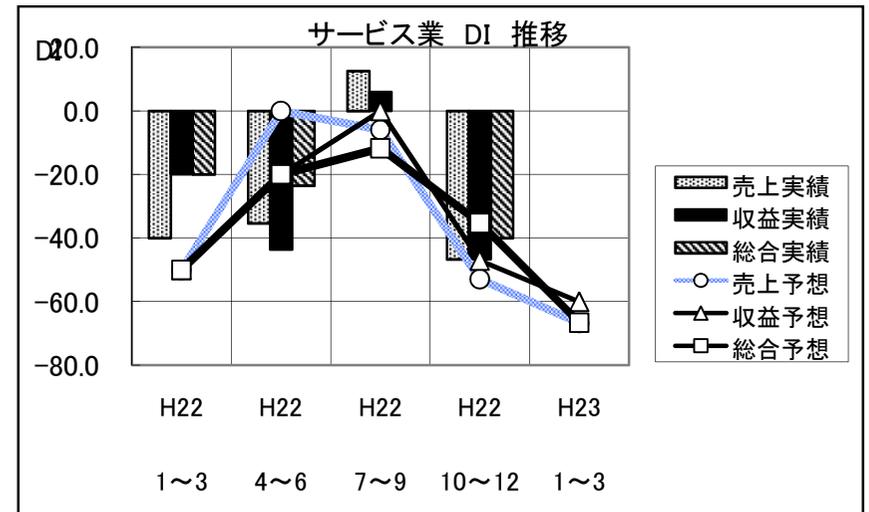
サービス業

売上DI値は△46.7、前期実績7～9月期(12.5)に比して59.2ポイントの下降、収益DI値は△46.7、前期実績7～9月期(5.9)に比して52.6ポイントの下降、総合判断DI値は△40.0、前期実績7～9月期(0.0)に比して40.0ポイントの下降と、売上・収益・総合とも大きく悪化傾向であった。向こう3カ月の見通し 売上・収益・総合ともに悪化傾向にあり、見通しは厳しい。

サービス業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成21年10月～12月 に比べて	前期比 平成22年7月～9月 に比べて	来期見通し 平成23年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	-40.0	-46.7	-66.7
②製品・商品在庫	-6.7	-6.7	-6.7
③資金繰り	-26.7	-26.7	-33.4
④採算(収益)	-40.0	-46.7	-60.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-13.3	-6.7	-13.3
⑥貴社の業況(総合判断)	-40.0	-40.0	-66.6



<業況判断DIの推移>

	H22.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	H23.1～3月見通し
売上	-40.0	-35.3	12.5	-46.7	-66.7
収益	-20.0	-43.7	5.9	-46.7	-60.0
総合	-20.0	-23.5	0.0	-40.0	-66.6

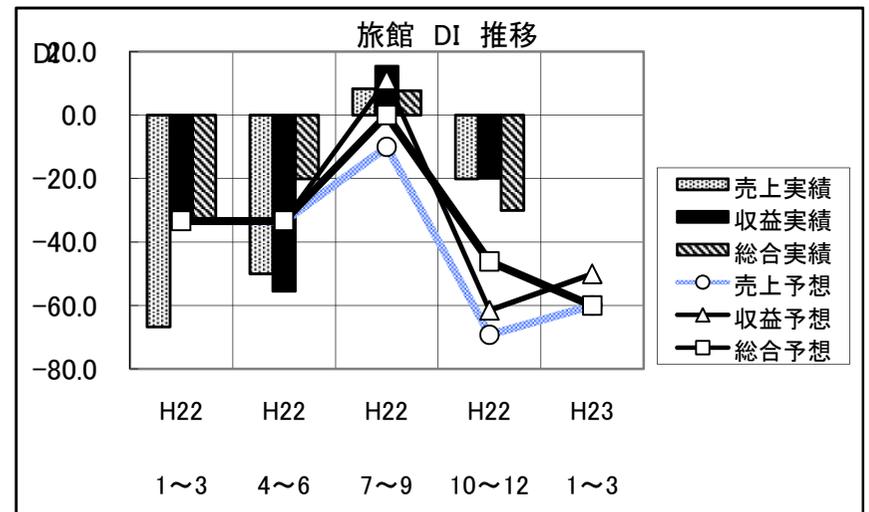
【旅館】

景気低迷の影響で忘年会・新年会の予約は減少傾向。また、宴会の席での追加注文等が減り館内消費・客単価が減少している。天然アカザエビを食材に使った「プリンセス御前」、竹島ベイパークでの「グラウンド・ゴルフ」、「ノルディックウォーキング」等も認知度がまだ低く、継続的な営業活動を市民一体で行っていききたい。向こう3カ月の見通し 年末年始の需要期を過ぎて難しい時期に入る。市内では、他のホテル・旅館に先立って新たな源泉(天然ラドン)を引き込む施設もあり、蒲郡温泉郷の認知度・イメージ向上を図る。また、インターネットを通じた宿泊が増加しているが、旅行のテーマ性等を意識した魅力あるプランを販売していきたい。国内旅行全般では、新幹線の乗り入れが始まる青森・鹿児島など南北に旬の地域があるが、名古屋市科学館・JR東海博物館などの新施設、親鸞聖人大遠忌等のイベントを通じて東海圏にも誘客を図りたい。なお、尖閣問題以降の減少が底を打った感のある中国人はじめ、アジア諸国の観光客に対しても、東京⇄京都・大阪のゴールデンルート途中での宿泊獲得に努める。(観光部会)

(旅館)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成21年10月～12月 に比べて	前期比 平成22年7月～9月 に比べて	来期見通し 平成23年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	-20.0	-20.0	-60.0
②製品・商品在庫	-10.0	-10.0	-10.0
③資金繰り	-10.0	-20.0	-20.0
④採算(収益)	-20.0	-20.0	-50.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-20.0	-10.0	-20.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-30.0	-30.0	-60.0



<業況判断DIの推移>

	H22.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	H23.1～3月見通し
売上	-66.7	-50.0	8.3	-20.0	-60.0
収益	-33.3	-55.6	15.4	-20.0	-50.0
総合	-33.3	-20.0	7.7	-30.0	-60.0

運輸通信業

売上DI値は△12.5、前期実績7～9月期(△44.5)に比して32ポイントの上昇、収益DI値は△25.0、前期実績7～9月期(△55.6)に比して30.6ポイントの上昇、総合判断DI値は△12.5、前期実績7～9月期(△44.4)に比して31.9ポイントの上昇と、売上・収益・総合ともに改善傾向である。向こう3カ月の見通し 売上・収益・総合ともに、悪化傾向にある。

運輸通信業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成21年10月～12月 に比べて	前期比 平成22年7月～9月 に比べて	来期見通し 平成23年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	-25.0	-12.5	-62.5
②製品・商品在庫	25.0	37.5	12.5
③資金繰り	0.0	0.0	0.0
④採算(収益)	-37.5	-25.0	-50.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	12.5	0.0	-25.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-25.0	-12.5	-50.0

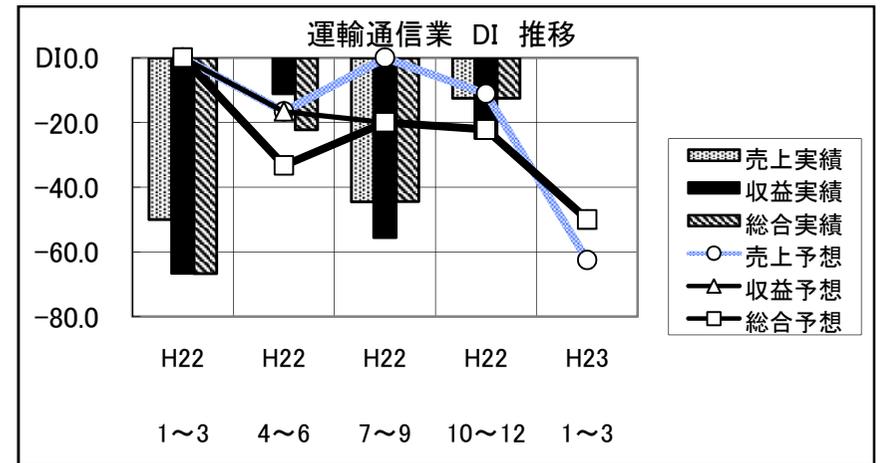
[旅客・貨物輸送・水運]

海運関係:運輸業界は円高による輸出の伸び悩み、エコカー補助金や家電エコポイントの駆け込み需要の反動で、荷主である国内メーカーの減産が進み景況感は悪化。円高もあり輸入は前年同期比で増加傾向だが、国内消費低迷で木材等の原材料は微増に留まる。輸出は円高の影響が大きく、特に金属機械製品は減少傾向。三菱自動車の完成車輸出台数は前年同期比で約40%増と好調。向こう3カ月の見通し 輸入は木材や鉱産物等、前年同期比で微増も低調に推移する見込み。国内輸送および輸出はエコカー補助金の終了による減産の影響で先行き不安が強まる。三菱自動車の完成車輸出は円高の影響と一部車種の他工場への製造移管で、年初来続いた増加傾向が鈍化する見込み。バス業界関係:秋の行楽シーズンで貸切団体・募集ツアーも前年並みを維持。一方で、忘年会が減少傾向にあり前年割れとなった。向こう3カ月の見通し ツアーも含めた個人旅行、団体客とも例年並みの見込みである。(運輸交通港湾部会)

(旅客・貨物輸送・水運)

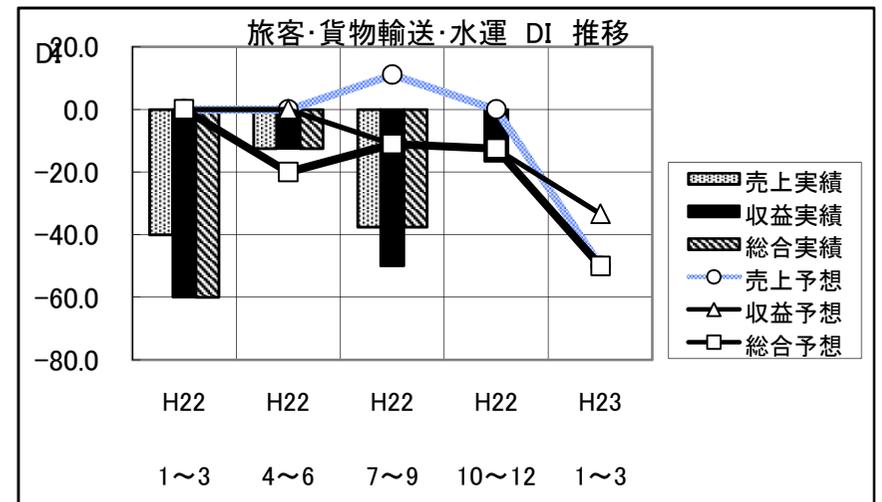
(DI 単位:%)

	前年同期比 平成21年10月～12月 に比べて	前期比 平成22年7月～9月 に比べて	来期見通し 平成23年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	0.0	0.0	-50.0
②製品・商品在庫	33.3	50.0	16.6
③資金繰り	0.0	0.0	0.0
④採算(収益)	-33.3	-16.6	-33.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	16.7	0.0	-33.3
⑥貴社の業況(総合判断)	-16.7	0.0	-50.0



<業況判断DIの推移>

	H22.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	H23.1~3月見通し
売上	-50.0	0.0	-44.5	-12.5	-62.5
収益	-66.7	-11.1	-55.6	-25.0	-50.0
総合	-66.7	-22.2	-44.4	-12.5	-50.0

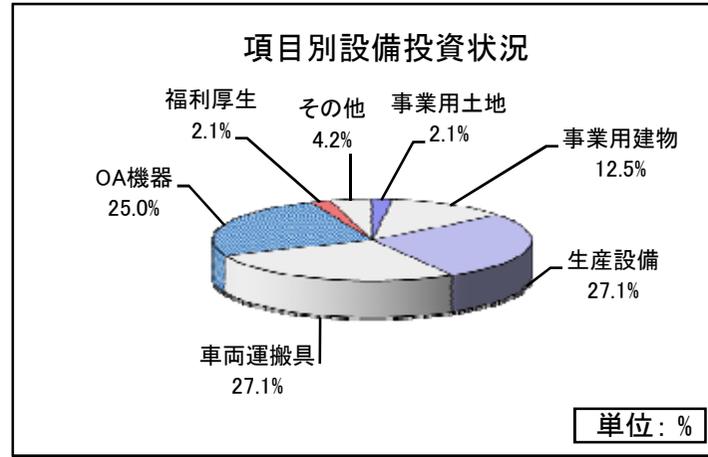
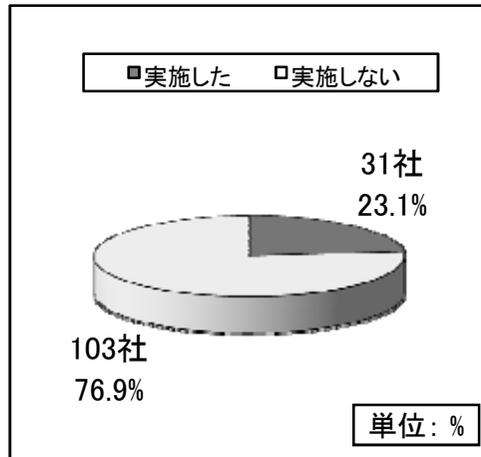


<業況判断DIの推移>

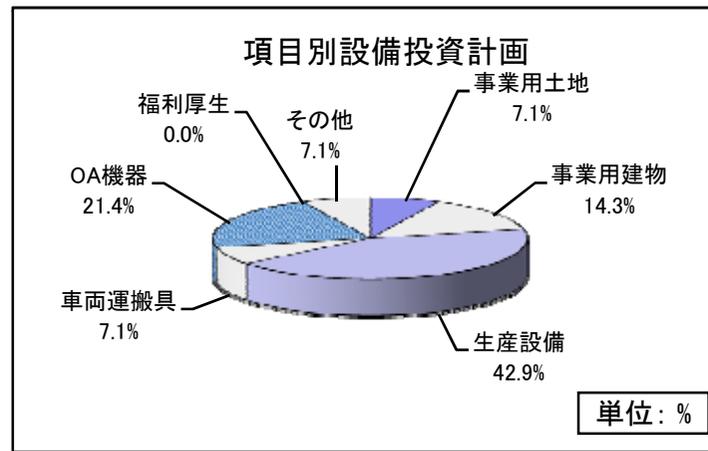
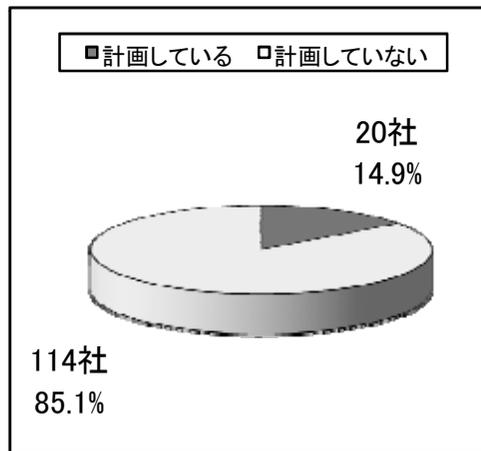
	H22.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	H23.1~3月見通し
売上	-40.0	-12.5	-37.5	0.0	-50.0
収益	-60.0	-12.5	-50.0	-16.6	-33.3
総合	-60.0	-12.5	-37.5	0.0	-50.0

7. 設備投資動向

＜今期(H22. 10～12月)設備投資実施状況 全業種＞



＜来期(H23. 1～3月)設備計画 全業種＞



◎設備投資・計画内容(全業種)

	今期	来期見通し
事業用土地	1	2
事業用建物	6	4
生産設備	13	12
車両運搬具	13	2
OA機器	12	6
福利厚生	1	0
その他	2	2
計	48	28

(単位: 件)

◎今期(H22.10～12月)、来期(H23.1～3月)設備投資実施、計画動向

(単位: 事業所)

	全業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業
1. 今期 (H22. 10～12月)	31	15	2	1	5	5	3
2. 来期 (H23. 1～3月)	20	10	0	1	2	5	2

8. 経営上の問題点

項目別経営上の問題点(全業種)

(上位5項目 回答企業数 135 社)

	項目	件数 %
1	売上の停滞・減少	91 67.4%
2	利幅の縮小	82 60.7%
3	競争激化	65 48.1%
4	原材料(燃料)高	38 28.1%
5	工場機械店舗の狭小・老朽化	17 12.6%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

業種別経営上の問題点

(上位3項目)

	1位	2位	3位
製造業 52社	利幅の縮小 34社 65.4%	売上の停滞・減少 28社 53.8%	競争激化 25社 48.1%
建設業 13社	売上の停滞・減少 11社 84.6%	利幅の縮小 11社 84.6%	競争激化 10社 76.9%
卸売業 17社	売上の停滞・減少 12社 70.6%	利幅の縮小 12社 70.6%	原材料(燃料)高 11社 64.7%
小売業 30社	売上の停滞・減少 22社 73.3%	利幅の縮小 15社 50.0%	競争激化 13社 43.3%
サービス業 15社	売上の停滞・減少 11社 73.3%	競争激化 7社 46.7%	利幅の縮小 7社 46.7%
運輸通信業 8社	売上の停滞・減少 7社 87.5%	競争激化 3社 37.5%	利幅の縮小 3社 37.5%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

付帯調査(地域データ)

No.49

番号	調査項目	単位	H23. 1報告	基準日	H22. 10報告	基準日	H22. 7報告	基準日	H22. 4報告	基準日	出典
1	人口	人	81,036	H23.1.1	81,156	H22.10.1	81,219	H22.7.1	81,280	H22.4.1	蒲郡市市民課 住民基本台帳 (日本人のみ)
2	世帯数	世帯	29,131	H23.1.1	29,098	H22.9.1	29,078	H22.7.1	29,045	H22.4.1	"
3	15才～65才生産人口	人	51,203	H23.1.1	51,794	H22.10.1	51,469	H22.7.1	51,675	H22.4.1	蒲郡市 市民課
4	外国人登録者数	人	2,080	H23.1.1	2,100	H22.9.1	2,102	H22.7.1	2,114	H22.4.1	"
5	建築確認届出件数	件	136	H22.9～H22.11月	109	H22.6～H22.8月	85	H22.3～H22.5月	83	H21.12～H22.2月	蒲郡市建築住宅課 受付件数 (建物の新築および増築の合計件数)
6	全国完全失業率	%	5.1	H22.11月	5.1	H22.8月	5.2	H22.5月	4.9	H22.2月	総務省 「労働力調査」
	愛知県完全失業率	%	3.9	H22.7～9月	4.8	H22.4～6月	4.7	H22.1～3月	4.2	H21.10～12月	愛知県 「労働力調査地方集計結果」
7	全国有効求人倍率	倍	0.57	H22.11月	0.54	H22.8月	0.48	H22.4月	0.47	H22.2月	厚生労働省 「一般職業紹介状況(職業安定業務統計)」
	蒲郡管内有効求人倍率	倍	0.45	H22.11月	0.36	H22.8月	0.30	H22.4月	0.36	H22.2月	豊川公共職業安定所蒲郡出張所 業務月報より

全国データ

	労働			設備投資・住宅投資		GDP・景気動向指数		消費	
	完全失業者数 (万人)	完全失業率 (季調・%)	有効求人倍率 (季調・倍)	機械受注 (船舶電力除)前年比(%)	新設住宅着工 (戸数)	名目国内総生産 (兆円)	実質成長率 前期比(%) 年率	消費支出 (全国勤労者)前年同月 比%	新車販売台数 (万台)
1996年度	225	3.3	0.72	11.4	1,630,378	515.0		1.0	-
1997年度	236	3.5	0.69	▲ 3.9	1,341,347	520.0		▲ 0.2	-
1998年度	294	4.3	0.50	▲ 18.6	1,179,536	514.0		▲ 0.8	-
1999年度	320	4.7	0.49	0.6	1,226,207	508.0		▲ 1.8	-
2000年度	320	4.7	0.59	16.6	1,213,157	513.0		▲ 1.2	-
2001年度	平均 340	5.0	0.59	▲ 12.6	1,173,170	492.3	▲ 0.8	▲ 3.4	405.9
2002年度		359	5.4	0.54	▲ 3.7	1,145,553	489.9	▲ 0.8	▲ 0.6
2003年度	350	5.3	0.64	8.2	1,173,649	493.7	2.1	▲ 0.2	402.7
2004年度	313	4.7	0.83	6.5	1,193,038	498.5	2.0	0.4	396.2
2005年度	294	4.4	0.95	5.6	1,249,366	503.2	2.3	▲ 0.4	392.8
2006年度	275	4.1	1.06	2.0	1,285,246	510.9	2.3	▲ 2.2	371.5
2007年度	257	3.9	1.04	0.7	1,060,741	560.5	2.4	0.9	342.8
2008年1月	256	3.8	0.98	18.8	86,971			3.6	24.1
(平成20年)2月	266	3.9	0.98	1.0	82,962	140.9	1.4	0.0	32.2
3月	268	3.8	0.95	4.2	83,991			▲ 1.6	47.1
4月	275	4.0	0.93	▲ 0.6	97,930			▲ 2.7	23.2
5月	270	4.0	0.93	3.6	90,804	137.1	▲ 0.3	▲ 3.2	22.1
6月	265	4.1	0.90	4.9	100,929			▲ 1.8	28.1
7月	256	4.0	0.88	▲ 4.6	97,212			▲ 0.5	30.2
8月	272	4.1	0.85	▲ 10.1	96,905	136.8	▲ 1.1	▲ 4.0	19.3
9月	270	4.0	0.83	▲ 2.8	97,184			▲ 2.3	31.0
10月	255	3.8	0.80	▲ 27.2	92,123			▲ 3.8	23.3
11月	256	4.0	0.76	▲ 33.1	84,277	138.9	▲ 4.5	▲ 0.5	21.5
12月	270	4.3	0.73	▲ 24.1	82,197			▲ 4.6	18.3
2009年1月	277	4.1	0.67	▲ 49.4	70,688			▲ 5.9	17.4
(平成21年)2月	299	4.4	0.59	▲ 44.8	62,303	128.3	▲ 10.4	▲ 3.5	21.8
3月	335	4.8	0.52	▲ 30.5	66,628			▲ 0.4	32.3
4月	346	5.0	0.46	▲ 42.5	66,198			▲ 1.3	16.6
5月	347	5.2	0.44	▲ 44.6	62,805	129.2	▲ 7.0	0.3	17.8
6月	348	5.4	0.43	▲ 40.9	68,268			0.2	24.3
7月	359	5.7	0.42	▲ 33.3	65,974			▲ 2.0	28.9
8月	361	5.5	0.42	▲ 31.9	59,749	129.7	▲ 6.3	2.6	19.8
9月	363	5.3	0.43	▲ 26.6	61,181			1.0	32.1
10月	344	5.1	0.43	▲ 12.2	67,120			1.6	26.3
11月	331	5.2	0.43	▲ 9.2	68,198	137.4	▲ 1.4	2.2	29.3
12月	317	5.1	0.43	1.9	69,298			2.1	25.0
2010年1月	323	4.9	0.46	16.7	64,951			1.7	23.8
(平成22年)2月	324	4.9	0.47	26.7	56,527	134.2	5.9	▲ 0.5	29.4
3月	350	5.0	0.49	13.1	65,008			4.4	44.3
4月	356	5.1	0.48	29.4	66,568			▲ 0.7	22.2
5月	347	5.2	0.50	17.2	59,911	132.4	3.5	▲ 0.7	22.8
6月	344	5.3	0.52	24.2	68,688			0.5	29.3
7月	331	5.2	0.53	23.4	68,809			1.1	33.3
8月	337	5.1	0.54	38.4	71,972	135.4	5.3	1.7	29.0
9月	340	5.0	0.55	16.6	71,998			0.0	30.8
10月	334	5.1	0.56	22.9	71,390			▲ 0.4	19.3
11月			0.57		72,838				20.3

(総務省)

(厚労省)

(内閣府)

(国土交通省)

(内閣府)

(総務省)

(自販連統計)